



ピーマン 整枝、追肥、灌水、剪定で長期収穫

トウガラシのうち、辛味のない肉厚の楕円形(オボレトウガラシ)がピーマンです。また、パプリカと呼ばれているものは、赤、黄、橙などの着色した完熟果を収穫する品種です。高温性で暑さに強く、病虫害が少ないので栽培しやすい野菜です。

【品種】ピーマンの育苗期間は70〜80日と長いため、苗の購入が便利です。品種を特定することが難しいですが「京まつり」(タキイ種苗)、「翠玉二号」(サカタのタネ)などが良いでしょう。

図1 良い苗の選び方



図2 畑の準備

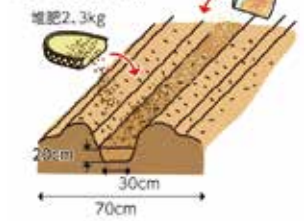


図3 植え付け

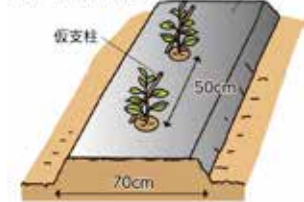


図4 整枝・誘引



栽培カレンダー(ピーマン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
中間地		▲	▲	■	■	■	■	

▲ 植え付け — 生育 ■ 収穫

が太く節間が短くしつかりしている
③葉が緑色でつやがある ④一番花のつぼみが付いている ⑤病虫害のないもの、です(図1)。

【畑の準備】 植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて土とよく混ぜておきます。1条植えの場合は1週間前に幅70cm程度の栽培床を作り、中央に幅30cm、深さ20cmの溝を掘り溝1m当たり化成肥料(NPK各成分12%程度)200gと堆肥2、3kgを施しておきます(図2)。

【植え付け】 晩霜の恐れがなくなったから、株間50cm程度で植え付けます。あらかじめ黒のポリフィルムでマルチをし、地温を高めておきます(図3)。

【整枝・誘引】 植え付けと同時に仮支柱を斜めに挿し、株を支えます。一番花が着果すると、脇芽が伸びてくるので、一番花のすぐ下から出る勢の良い2本の側枝を残し、他は取り除き3本仕立てにします。そして、一番花より下の脇芽は早めに摘み取ります(図4)。なお、一番花は着果負担がある

ため、開花中に摘花します。その後、主枝または側枝に沿って1m以上の支柱2、3本を交差させて誘引・固定します。

【追肥・灌水(かんすい)】 収穫が始まる頃から、マルチフィルムの裾をめくり、1平方m当たり(約4株分)化成肥料50g程度を株元にまき、土寄せします。その後、半月おきに畝の裾に同量を収穫中休みなく与えます。根張りが浅く、乾燥に弱いので夏場は毎日灌水しましょう。

【剪定(せんてい)】 盛夏になると、枝が込み合い、葉が茂って果実への日当たりが悪くなってきます。そこで、この頃に重なった枝を剪定します。

【病害虫防除】 アブラムシにはマラソン乳剤、アデイオン乳剤などの登録農薬で防除します。

【収穫】 開花後15〜20日、30g程度のつやのある若い果実を収穫します。

花卉部会便り

かきぶかいだより



今年のお盆から 仏花用の **小菊** を栽培・出荷していただける方を **大募集** しています。



- ① 販路があり、お盆・お彼岸など需要があります。
 - ② 露地で栽培でき、設備投資等もあまりかかりません。
 - ③ 部会で研修会等を開催し、1年目から出荷ができます。
- 「栽培の方法」などを説明させていただきます。ご連絡をお待ちしております。

お問い合わせ先/特産振興課 ☎63-2108(平日8:30~17:00)